

丹治 敬之 研究室 (障害児心理学・応用行動分析学)



准教授

博士 (障害科学)

わたしの主な研究的な関心・専門分野・研究テーマ

① **読み書き発達の認知的・環境的要因の解明と早期支援モデルの開発**：就学前後の子どもはどのような読み書き発達を遂げるか、それを支える力とは何か、家庭の読み書き環境とはどう関係があるのか、縦断研究を通して研究しています。その知見をもとに、読み書きで困っている子どもとその保護者を支える早期支援モデルの開発もめざしています。

② **学習に困難を抱える子どもと共に考える多様な学び方の探究**：一人ひとりの子どもの読み書き困難の背景、本人の思いや得意、興味関心に合わせた学習方法を探究しています。特に学びの可能性を引き出し、新たな学びを創出する主体的な ICT 活用に注目しています。

③ **人と人・ものとの間にある問題の分析と解決をめざす応用行動分析学の展開**：応用行動分析学を援用して、人と人・ものとの間にある「障害」を分析・支援する研究をしています。

★主な研究業績 (学術論文・書籍)：[researchmap](#), [ResearchGate](#)

研究室の学生の皆さんが取り組んだ主な研究テーマ

- 発達障害のある子どもの特殊音節読みの指導
- 自閉症スペクトラムのある子どもの自傷行動支援
- 自閉症スペクトラムある子どもの作文指導
- 通常の学級における多層指導モデル MIM を用いた読み書き指導
- 発達障害のある子どもの感情コントロールを学ぶグループ指導
- 知的障害のある子どもの ICT を活用した読み指導
- 幼児のことば遊びとひらがなを読む力との関連
- テーブルトーク・ロールプレイングゲームを用いた余暇活動支援
- 学習障害のある子どもの家庭学習と文章読みを支える ICT 活用
- 読み書き障害のある子どものオンライン漢字書字指導



教材づくりを通して支援の方法を学びます

学生のみなさんへのメッセージ

「障害」はどこにあるのでしょうか？
 「障害」をどう捉えるのでしょうか？
 私たちは、人と人との間、人とももの・こととの間で生きています。そのなかで成長をしたり、悩んだり、困ったりもします。それは、親、先生、そして子どもも同じでしょう。一方で、どのくらい成長したり、悩んだり、困ったりするかは、一人ひとりの子どもによって違います。それらのことが、子どもと人・もの・こととの間の相互作用で生じるものだとしたとき、「障害」はどこにあるのか、どう捉えるのか。一緒に考え、問い続けていきましょう。

研究室の活動

① 読み書き計算等の学習に困難のある子どもの療育 (発達支援相談室)

大学で読み書き計算等の学習に困難のある子どもとその保護者の教育相談を進めています。研究室の学生が中心になって、子どもの興味関心、得意を生かした教材作り、苦手や困難を助け、楽しく学べる ICT 活用等の学習支援をめざしています。

② 幼保こども園、小学校における子どもの読み書き発達に関する追跡調査

同じ子どもを数年間にわたり追跡調査し、読み書きの力がどのように発達していくのか、その発達に何が関係するのかを明らかにする研究を進めています。

③ 特別支援学級、特別支援学校における実践研究

特別支援学級、特別支援学校の先生と共同研究をしています。現場の先生と協力して作成した教材や指導法を学校現場で実践し、その成果と課題を考察します。

